

Q10. 熊本県が被災した場合、職能団体として県士会はどのような対応が必要と思いますか。(複数回答可)※自由記載分

安否確認でお互い安心できたから

県内各地に散在する会員の把握と具体的支援

会員同士の助け合いシステムの構築

行政が状況把握する際のサポートやそれを受けて行政側が何を必要としているかも確認したうえで地域応じたサポートが必要。

職域によって実際に行えることは幅広いため、まずは状況把握、発信、判断、引き継ぐつなぐことが役目なのかなと思う

困っている方の隙間を見つけられると思うから

情報をまとめたりすること

多くの会員は職場で各協議会に所属しているので、その対応を核とし、県士会ならではの支援を重視いただきたい

情報不足で困った人が多くいた

県外の有職者と現地で連携することが多かったが、ワンストップで相談できる多工業連携が遅れており、異業種同士で足の引っ張り合いになっていた

会員の安否確認が最優先だと思います。職能団体としての特性を活かした支援が求められていると思いますので市、県、ボランティア団等と連携してできることがあれば支援体制に入れておいてもらった方が良いと思います。

被災者が同じ質問を繰り返さなくて済むような他団体との調整が必要だと思う

避難所でのニーズに対する相談支援

全て必要と思われる

支援を必要としている人、情報も混乱していることでしっかりとした職能団体はコーディネートできるようにしてほしい。

理学療法士会などは会員の安否確認と会費の免除など早急に対応されていたため

相談支援は行政で行われていた。災害とあれば災害救助法の下での動きになるので社会福祉士独自生というよりは自治体と共にかつどうできる唯一の専門職団体としての活動だったから

支援を行う各団体のコーディネート。横の連絡ができていないと支援がスムーズに進まないため

発災時は様々な団体が支援に押し寄せてくるので必要性の把握は必要で支援しないことも支援になると考えることができます。

職能団体しかできないサポートの必要性を感じます。

被災した地域外の方が被災した地域で相談業務を行うことの難しさを実感しました。そこで被災した地域の会員が勤務している事業所等で支援を行うことが有効ではないかと感じています。

支援を受け入れる側としては被災状況や必要性の把握を確実に行わないと適切な支援につながらない為

実際に福祉避難所で活動していて必要であったり支援してもらって、とても助かったものだから。特にコーディネートは必要に感じた。

ケースワーカー職としての専門職に関連した内容がこれらの項目と思えるから

社会福祉士としての人脈や役割を活かして対応が必要と思うから

自分も被災した中、担当利用者の支援もしなければならなくなると大変である。

熊本地震でも支援が集中し、まんべんな支援は無縁でした。現に半身まひの在宅の知人がペーパー一つもらえなかった…と話します。私たちの支援は福祉優先コーナーでいいのではと思います。

まずは身近な地域の方、あるいは支えている人の支援を必要だと感じたから

熊本県社会福祉士会として直接の支援というよりは間接的な支援(コーディネート)が得意分野であると思う。

連絡・調整などが社会福祉士の役割と思うため

自分もコーディネートする職種であるため、専門の職能団体も同様の対応してもらえるとより多く支援に当たれると感じたため。

具体的にはわからないが、振り返ると専門職をとして技能を活かせる場面がもっとあったかもしれないと思うから

個人的な意見になりますが、実際に被災した方のサポートがとても重要と感じたため。短期的に行う必要があると思います。※行政の支援も必要ですが、食事で困っていた人がいたため。

実際被災をした経験をして、状況の集約やコーディネートは多職種団体と自治体で1つを定めて行ったほうがいいと思います。

どこまで支援が可能かわからないが、情報の把握は必要と思うため

職業から日々各関係機関との連携で仕事をしており「コーディネータ」は、他にはないものと思います。その「力」を有意義に役立てることこそ、求められているのではないのでしょうか。

1回では不十分。一番感じたのはあまりにも認知度が低いこと。引用するが、災害後、緊急チームがまず被災地に入る。その時さんざん個人情報を聞かれる。私が行く頃には警戒心が強く中々うまく介入できなかった。

災害ボラセンの支援に行ったが、スタッフの数が足りていないところがあった。会としてサポートができればよいと思う。

適切な支援活動を実行できるようにするため

支援を受け入れる人と支援をする人の必要なものが分かるとよいと思う。

必要な所に支援が入っているのか、支援が必要な所はどこなのか把握するためにも、情報収集(集約)してほしい。実家の地区が被災したが、必要な支援がなかなか入らず困った。

情報の集約をし、困っている会員に被災のない会員が支援や物資やボランティアなどの協力ができるといい。

職能団体として対個人というよりも、団体間・避難所間のコーディネートを行う方が望ましいのでは。

社協だけで支援情報を集約したり、コーディネートするのは難しいと感じたため。

自治体等と協力して役割体制が確立できれば良いと思う。

目の前のことでいっぱいになりがちだが広く情報を収集して提供する必要があると思うから

支援を行えない会員へのサポート。本来は支援活動に参加したかったが、自身が被災してできなかったため、支援活動に参加できない自分は活動に関して意見が言えなかった。理事会等で支援の話を知っているのがつらかった。

被災状況を把握し、専門職としての支援の必要を会員に発信。支援者がバーンアウトしないためのサポート

ばあとなあ会員としての仕事がおろそかになり不安だった。各団体と協力して支援をしたり、各団体のコーディネートをする機能が必要と感じた。会員からのサーポとは本当に心強かった

具体的な支援策の提示提案

避難所での諸問題(健常者と障害者・高齢者の共生が難しい)

横のつながりが機能し、困窮者の方々に迅速に対応できること

被災した地元としては、直接支援よりもコーディネート機能のほうが力を発揮できると思います

個々の支援も大切ですが、どこかで集約やコーディネートすることも大切だと思うため

被災を想定してシミュレーションや準備をしておくべき。受援につながるから。そのことは防災につながる。

被災した自治体からの要請に応えられるような職能団体となるべき。(自治体との連携)

すべて必要であると思う

コーディネートの役割が実際十分に行えれば、スムーズな支援につながると思うから

他の都道府県から社会福祉士支援を受け入れる場合、状況の把握して、必要と思われる場所へ派遣するためにその体制作りは必要と思う

ボランティアを県内外から受け入れても役割を振る役を擦るところがなかったと伺ったので・・・適した専門職や機関をつなぐことも県士会なら適格にできると思った

職能団体として必要と思う

避難所にいる方の話を聞いたり、生活のサポートを福祉に携わる者として手伝いたい

支援やボランティアに入ってもらえる方のコーディネートが必要と思ったのは、個々人に動かれると引継ぎが困難であるし、支援地域に偏りが出る。福祉職としての専門性を生かして欲しい。

職能団体としての使命であると考えから

個人的には支援活動に参加した際、本当に被災地被災者のニーズは日々変わり続けており、本当に必要な人たちに必要な支援を届ける難しさを感じた。様々な団体が被災地へそれぞれの想いを持って入っているが、被災地はその受け入れやコーディネートに振り回されていた。もっと、役割分担が必要。

事務局がある地域で災害が起きると機能が止まってしまう為。複数の対応が必要かと思います。

各施設やそこに所属するSWは自分の事や業務でいっぱいだったと思われるため

災害が熊本に限らず、他県でも震災や水害等が起きている中、支援のあり方が問われると思うため。

直接的な支援よりもコーディネート役であったり、行政やその他の支援団体の手の届かない分野で活動することが求められていると思う。

情報や人、物資等の取りまとめ等のバックアップ業務が重要だと思うため

社会福祉士の倫理綱領や定義にもあるように、人間関係の構築を図る団体であると考える為。

被災された方の困りごと生活再建に向けて聞き取りやニーズ把握が必要だから

相談援助のスペシャリストだから当然だと思います。

被災地では混乱しているため、コーディネート役が必要

被災してすぐの支援だけではなく、被災地を長期的に支援する仕組みが必要だと感じました。具体的にはまだ考えがまとまっていません。(家を再建するための方法。精神的サポート。ボランティア団体の受け入れなど?)

正しい情報が発信が大切。その情報で助かる方が多くいると思いますので

直接支援より全体を把握し支援をコーディネートする方が専門性を活かせる。

どの項目においてもソーシャルワークを考える上では必要な部分であると思う為。

連携も含めコーディネートの役割や避難所での支援は重要だと思います。

情報は大切だと感じました。

他団体との連携や役割分担がうまくできておらず、重複する支援で対象者に負担をかけたり、必要な地域への支援不足など偏りがあったのではないかと反省することがあったから。

被災した地域の状況把握はその地域を良く知る役場や社協に任せるべきだと思う。その後方支援を専門職としての視点で行っていけると良いのではないかと。支援を行う団体が多くてまとまらない。指示系統がはっきりしないために支援が遅れるのは避けたいから。

組織として支援を行うのであれば、状況の把握からコーディネート、行政との連携、会員サポートなど必然的に行う事になるから。組織の在り方の理想になると思います。現実には難しいとは思いますが。

地震後すぐにPSWのホームページでボランティアの募集を探したが情報が無かった。他機関の募集をみつけてそこに参加した。

支援には正確な情報とニーズの把握が必要なので

ネットワークを活かした支援が必要だと思います。

県士会としては自ら支援するよりも各支援団体のコーディネートを行う方が良いと思う。

どのくらいの情報収集が出来るか不明だが、ネット環境等があればどのような支援が必要か等発信し、支援可能な方々の情報提供の一助となれば良いと思ったから。(ただ、会員の方々も仕事を持たれてる方が大半と思われる為、動くにも限りがあるので無理はあるの無理は言いません。)

その時期に応じたアセスメントやニーズ把握を行い、繋がりを意識しながらネットワーク形成をしていく必要がある為。

支援状況の発信。また、サポート・ニーズのコーディネートが被災した場合大切だと思われる為。

被災状況の把握を行ったうえで、県士会として何が求められているのか、何をすべきなのかを見極めることが第一と思います。その時の災害の状況によりニーズは変わってくるので、状況に応じたスキルの発揮が出来るのが最善だと思います。

被災直後は医療等の緊急性の高い支援が必要だと思うが、私たち社会福祉士は、その後の生活に関する不安に対して避難所等での相談が必要と思ったから

支援団体の活動把握

被災者の生活再建

相談機関へのサポート、避難所以外にいる人(車中泊・自宅)への情報発信

被災会員への見舞(日本士会)